

災害への備え、被災時の地域協力を考える内郷の会

# あんしん内郷

第 3 号 (2023 年 8 月)

発行:内郷地区社会福祉協議会

Tel/Fax:043-486-5690

eメール:uts@catv296.ne.jp

Instagram:uchigou\_bousai



あんしん内郷  
Instagram

佐倉市危機管理課 荒井博友防災官に内郷地区の防災についてお話しを伺いました。

インタビューは、内郷生まれ内郷育ちのトイプードルの「レオ君」と野良猫の「麦ちゃん」が担当します。



レオくん

今日は宜しく  
お願いします。



麦ちゃん

...



荒井さん

宜しく  
お願いします。



「僕が住んでいる内郷地区で起こりそうな災害は？」

「そうですね。内郷地区は印旛沼と鹿島川に近い地域は浸水が想定されますが、大部分は丘陵地帯なので、大雨等によって周辺の崖崩れなどの土砂災害も想定しておく必要がありますね。レオ君、この辺りは崖が多いでしょう？」



「確かに！僕の散歩コースの岩名運動公園も崖が多い気がするし、内郷って崖だらけだ！」

「もし、最近多い線状降水帯と呼ばれる局地的大雨が内郷地区で発生したら、土砂災害のリスクは相当高くなります。」



「そんな時は、佐倉市とか消防士さんが守ってくれるでしょ？」

「レオ君。それは間違いだよ。自然の脅威が迫っているときに、行政が一人一人を助けに行くことは不可能だから、避難をするかしないかは、レオ君の判断になるんだ。」



「そっか～。自分の命は自分で守るか～。出来るかな～。」

「確かに判断は難しいですね。家にいるのが一番安全と思っている方も少なくありません。行政が避難指示等を発令しても避難せず、大雨が続いて川の水位が上昇してしまい、いざ避難しようと外に出た時には、更に危険な状況になっていることもあります。」



「そんな時はどうすればいいの？」

「浸水が迫っている場合は、2階など家の中で高い所に。裏山の崖崩れが迫っている場合には、崖から離れたところに避難してください。」



「そっか～。地震以外も崖崩れで家が倒壊する事あるのか…。僕はいつも家の中にいるから、もしそうなったら救助隊が助けに来てくれるのかなあ。」



「いいかい、レオ君、麦ちゃん。驚きの数字を紹介するね！

兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)の事例です。家屋倒壊による生き埋めや建物に閉じ込められた人の約98%は自力、家族、隣人などによって救助されました。消防のレスキュー隊など専門の救助隊に助けられたのは、わずか1.7%でした。」



「救助隊に助けられた人はそんなに少ないの?!」

「大規模な災害になればなるほど防災関係機関の支援は困難となるため、地域の皆さんやご近所にいる人達の協力が重要になります。そして人命や財産を守る大きな役割を果たします。」



「ご近所の助け合いが必要ってことだね。」

「その通り！」



「僕の住んでいる内郷のご近所付き合いってどうなっているのかなあ〜。」

「地域によって人の繋がり方も色々だと思います。古くから住んでいる方や、引っ越してきた方もいらっしゃるなど色々ですが、防災対策は顔見知りの地域でまとまった方がいいでしょうね。」



「ところで麦ちゃん！何にも喋ってないけど！僕はお散歩の時しかお友達に会えないけど、君はいつも外をフラフラ出来るから、どんな風を感じているの？」



「・・・縄張りのパトロールだよ。たまにイノシシって言う変な奴も入ってくるからね。」



「なんか消防団みたいだね。で、ご近所付き合いは？」



「僕たち猫同士は、縄張りを守りながら夜な夜なミーティングをするのさ。毎日のように会うから野良猫も家猫もなんとなくみんな知り合いになっているよ。」



「いいね！僕も近所のブルーベリー農園にドックランスペースが出来たから、いっぱい友達作ろう！で、みんなで色々情報交換をして、地元内郷のこと話し合っていかなきゃ。」

「麦ちゃんとレオ君の言う通りだね。私達人間も、日頃からご近所同士のコミュニケーションを取り合い、気にかけてあげることがいざと言う時の一番の防災対策なんだ。」



「荒井さん貴重なお話しありがとうございました。防災とご近所付き合いの大切さ、とても勉強になりました。今度防災訓練や地域の集まりがある時は、僕も参加してみようと思います。麦ちゃんも行こうね！」



「・・・。」